まちづくりワークショップ　報告書　③

1.　タイトル

「積み木あそび！　ダイナミックにあそぼう！」

2.　目的

子どもと大人が一緒に遊ぶことを通して、遊びについて考えるきっかけを作る。

＊1万ピースの積み木を使って、だれかと一緒にあそぶこと、みんなでイメージを共有すること、みんなで作り上げたときのワクワクする気持ちを感じ取ってほしい。

3.　ワークショップの主催団体

子育てしやすいまちづくり連絡会

児童福祉課・いるま塾の会・障がい者手織り支援グループオリオン・どろだんごの会・入間おやこ劇場・入間遊び場づくり協会・親子支援課・児童センター・いるま子育て情報発信隊・ヒッポファミリークラブ

４．ワークショップの対象および参加者

対象：子どもと大人（事前申し込みなし、当日参加）

・午前…約６５名

・午後…約７０名

５．ワークショップの内容

＊日時：平成 20 年 12 月７日（日）10：30～12：00/13：30～15：00（２回開催）

＊会場：児童センター遊戯室

＊積み木遊びワークショップ

＊よくする遊びの展示・意見集約

コーディネーター：福本　亜希子（有限会社ほるぷC&S）

スタッフ：いるま子育てしやすいまちづくり連絡会メンバー

６．ワークショップの流れ

(1)　自分の作りたいたてものは何だ？

親子一緒に、作りたいたてものを自由につくる。

ポイント

＊　コーディネーターが声がけ。

＊　積み木の取り出し方・片付け方の説明

まずは家族でそれぞれ好きなものを作る

(2)　みんなで町をつくろう！

ポイント

＊ みんなが自由につくったたてものを見渡すと、何だか町ができそう。

＊ みんなのたてものを使って、町をつくらない？

家にこの積み木を持っている子は早くも大物を作成。みんなの「町」のイメージを刺激する。

（３）　もっと大きなものつくろう！

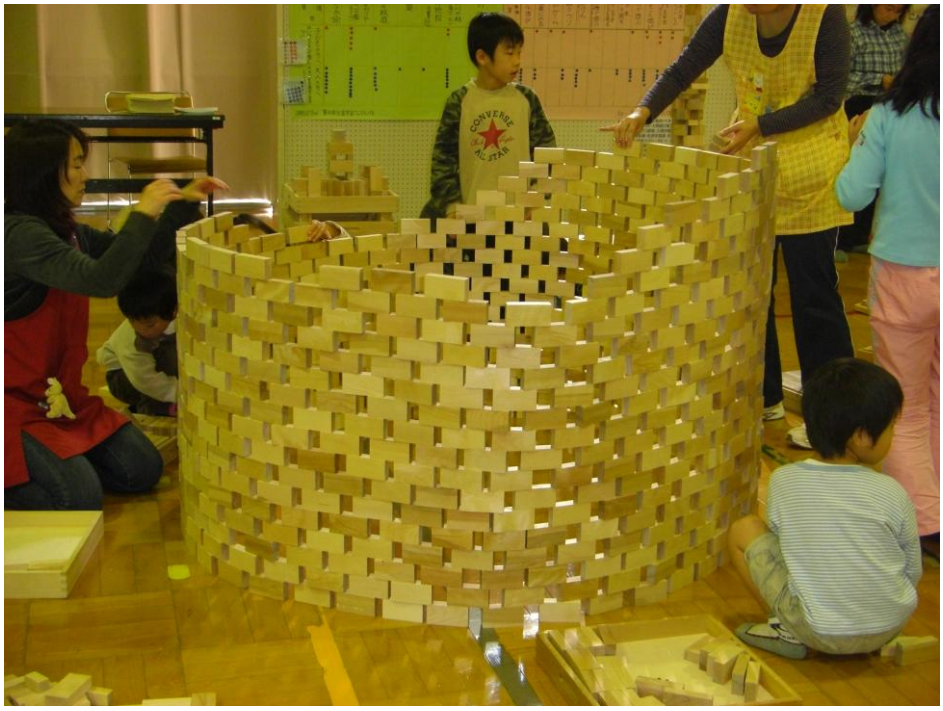
ポイント

＊　積み木の特徴にも慣れてきたところで、どうやったら大きいものが作れるか？

＊　みんなで協力しないと、くずれちゃうよ。

＊　みんなでイメージを共有しないと、おおきなものはつくれないよ。

みんなで協力して大物に挑戦！



おとなも子どもも真剣そのもの！

７．　まとめと今後の課題

＊当初参加人数を午前午後で４０組ぐらいと予想したが、予想外の人数が集まり、会場がかなり狭くなった。

＊おとなも子どもも積み木遊びに夢中になっていた。特にお父さんが夢中になって遊んでいた。

＊子どもたちの真剣に遊びに取り組んでいる姿や子どもたちの躊躇しない姿に感動した。

＊おとなと子どもによくする遊びについて聞き、展示する予定であったが、積み木に夢中になる人が多いあまり、多くの意見が集められなかった。

＊子どももおとなも、形にとらわれない、崩れてもやり直せるこの遊びにはまってしまった感じだった。はじめはなんとなく、だんだん、どんどん想像力が膨らんできて入り込んでいく･･･自分が作っている物が目の前に確かにある･･･参加した人たちの様子からそんな感動を感じた。

＊午前中、母と子で参加し、すごく楽しかったので、昼に父を呼びに行き、午後は家族で参加したという人がいた。

＊一緒に遊ぶこと、みんなでイメージを共有することが体感していただけ、遊びについて提案できた。

＊来年度以降も引き続き取り組んでもよい企画と思われる。

以上